

芽室公園再整備基本構想

(案)

【概要版】

令和8年 月

北海道芽室町

目次

1. 構想の背景	1
2. 構想のアプローチ	2
3. 基本構想	4
4. 今後の設計に向けて	10
基本構想図	11

1. 構想の背景

(1) 芽室公園再整備の目的

芽室町は、これまで合理的な土地利用や計画的な市街地整備、都市施設整備に取り組んできており、この結果一人当たりの公園緑地面積が41.89m²となり、北海道全体の39.3m²、全国の10.5m²を上回るものとなっています（「芽室町緑の基本計画」より）。

一方で、人口減少や少子高齢化社会の進行、IT技術社会の進展、地震や大雨等の相次ぐ災害の発生などにより社会経済情勢は大きく変化しており、人口減少による税収の伸び悩みや社会福祉関連経費の増加に伴う町財政の逼迫が懸念されています。

このような社会背景を踏まえ、「芽室公園再整備基本構想」では、芽室町の緑とレクリエーションの拠点公園である芽室公園の施設更新に向けて、公園施設の利用状況や劣化状況などを総合的に勘案するとともに、広く町民からのニーズを把握し、今後も本町を代表する総合公園としてあり続けていくための構想とすることを目的としています。

(2) 芽室町都市公園ストック再編計画における機能分担

公園ストック再編計画では、町内全域から利用されてきた芽室公園は、長年に渡り地域コミュニティや多世代交流の場として親しまれており、「交流型」の公園として、継続的な利用が見込まれています。

(3) 公園の概要

位 置: 芽室町本通8丁目 面 積: 20.23ha 供用開始: 昭和51年(1976年)

保有施設: 野球場、総合体育館、温水プール、テニスコート、パークゴルフ場、運動広場、

幼児用遊具、児童用遊具、噴水、花菖蒲園、カシワ(町指定天然記念物)、

ゲートボール発祥の地記念碑

施設状況:多くの町民に親しまれている芽室公園ですが、開園から約50年が経ち、施設の老朽化が進んでおり、今後のあり方について検討が必要となっています。



2. 構想のアプローチ

芽室公園の再整備を検討するにあたり、令和6年度には町民および小・中学生にアンケートを実施し、公園の利用状況や公園に対する今後の考え方などの把握を行いました。

アンケートの結果も踏まえ、今年度は芽室町都市公園ストック再編計画の策定とあわせて、町民参加による「芽室町の公園を考えるワークショップ」を開催し、公園に関する意見や要望を参加者から収集し、検討を行いました。

(1) 町民アンケートの実施(令和6年度) 抜粋

昨年度のアンケートの中から、芽室公園再整備に向け、参考となる事項について紹介します。

◆町内で、利用と人気が高い公園は、小・中学生、大人ともに「芽室公園」で、芽室町を代表する公園であることが分かります。

◆小・中学生、大人ともに公園にとって重要なものは、「子どものための遊び場」と考える意見が多く、自由記述にも遊具類の充実を求める声が見られました。

「自然とのふれあい」や、「防災の対策」については、大人の回答から多く寄せられており、どちらの意見も規模の大きな公園が担う部分が大きいと考えられます。

(2) 町民ワークショップの実施

芽室町公式ホームページ、広報誌「すまいる」、芽室町公式LINE、公園ニュースレター等で参加者を募りました。

○実施概要

全3回実施 計27名参加

【第1回】9/27 6名参加、【第2回】10/26 10名参加、【第3回】12/6 11名参加

○主だった意見

- ・芽室公園はみんな大いすき！
- ・芽室町のシンボル。十勝管内から人が来る公園として考えたい
- ・カシワや栗は大事にしたい
- ・神社の北側がじめじめしており、木を少し間引いてほしい
- ・噴水がよい
- ・噴水を作り直す場合も、滑り台付の噴水がよい
- ・噴水は幼児も使える形にしてほしい
- ・児童と幼児の遊具広場は近い場所にないと見守りが難しい
- ・現在の児童用遊具広場と神社の間の斜面はそり遊び場できる場所
- ・BBQ エリアは屋根付きにしてほしい
- ・花菖蒲園をインスタスポットにできないか
- ・写真スポットを複数つくり、公園内を巡れるような工夫をしてはどうか
- ・ドッグランを作ってはどうか
- ・ドッグランと駐車場は近い方がよいが、歩道とは分離する方がよい
- ・アクションスポーツのスペースがほしい
- ・現在の採暖室を再整備し、2階建てで眺望を楽しめたり、着替えやトイレに使える場所に
- ・どのエリアに何があるのか案内サインを整備してほしい
- ・公園が道路で分断されていることへの改善をしてほしい



2-3. 整備にあたっての課題

今回の基本構想において、ワークショップで提案された意見に加え、芽室町としての施設更新に向けた課題を整理しました。主なものを以下に示します。

○現地との整合性の確認

詳細な施設配置計画を行うためには、現地の測量調査を行い、地形の起伏や既存樹木の分布、既存施設の位置等を正確に把握しておく必要があります。

○既存施設の再検証

本構想では、現状の芽室公園の施設の大半を存続する内容となっていますが、今ある施設の残し方(野球場の硬式対応、給排水電気設備等のインフラ改修等)について、より詳細な調査と検討が必要となります。

○防災機能の検討

本構想は、町民からの施設ニーズを優先して大まかな配置と導入する施設をまとめていますが、基本計画の段階では、どのトイレを防災対応にするか、非常用電源をどのように確保するか、災害時の食事の配給場となりうるか、といった地域防災上の機能をどのように位置づけるかという課題について検討する必要があります。

○既存建物の更新・改修・建替えの検討

今回のワークショップの中で、採暖室の改修や綺麗なトイレなどを望む意見がありました。その対策については、建物の劣化状況や構造の状況等を調査したうえで判断する必要があります。

○ドッグランの整備

ドッグランの設置に関しては、運営や維持管理への対応等の課題もあることから、仮設の可能性も含めて検討する必要があります。

○遊び場の配置と規模

幼児用と児童用の遊具広場の位置をはじめ、どこに、どのような遊具を配置するかについては町民の関心が高い部分です。こうした遊びに関する再整備に関しては、今後も町民ニーズを確認しながら設定していく必要があります。

○Park-PFI事業との整合性

芽室公園では、民間活力の導入を目的としたPark-PFI事業を実施しているところです。今後、公園事業との機能分担や、利用促進に向けた連携について、綿密な調整を図る必要があります。

3. 基本構想

(1) 構想の基本方針

これまで把握してきた「1. 構想の背景」と、構想の策定に向けた「アンケート(R6)」や「ワークショップ(R7)」を通じて集約してきた町民ニーズを反映し、これからの中室公園のあるべき姿について、次のように方針を定めました。

方針1: 中室公園は多くの町民から長く親しまれている公園であり、カシワの森や花菖蒲園等、今ある公園の魅力を最大限に活かした再整備を目指します。

方針2: 中室町を代表する公園であり、子どもから大人、高齢者、障がい者、さらに町外からの利用者が交流できるレクリエーションの場づくりを目指します。

方針3: 特に、将来を担う子どもたちが、四季を通じて安全に楽しめる公園となるよう、遊具類の充実はもとより、夏の水遊び場、冬のソリ遊び場などの整備を検討します。

方針4: 園内に点在する老朽化施設については、利用状況や財政状況等を考慮しながら、計画的に更新を行うとともに、公園全体の維持管理コストの削減に取り組みます。

方針5: 近年多発する自然災害に対応できるよう、避難スペースの確保や防災トイレの整備、非常用電源の確保等に向けた施設づくりの検討を行います。

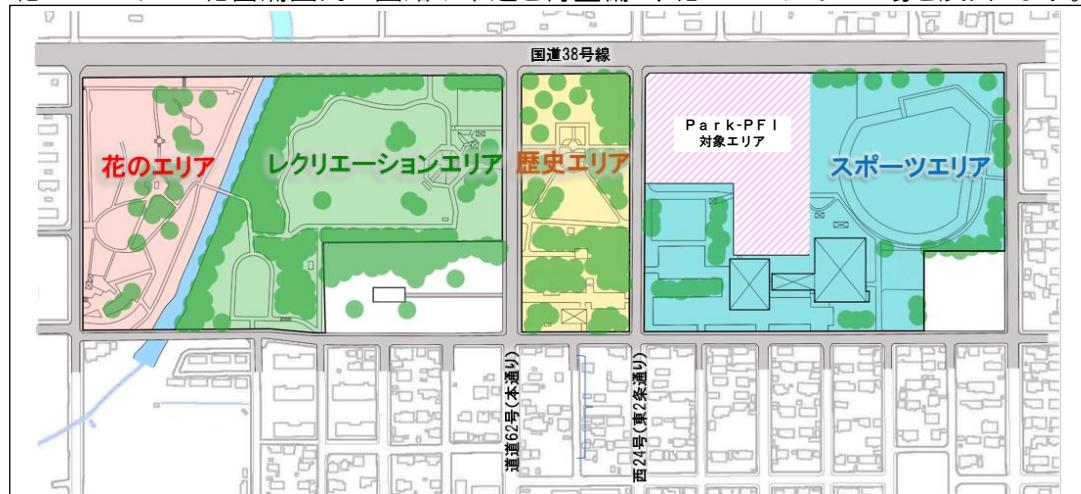
方針6: 現在検討中の民間活力を導入するPark-PFI事業との連携を図り、これまで以上に公園の賑わい創出を目指します。

方針7: 多くの世代の人が集まる立地条件を活かし、人の流れ・滞在・交流をまちなかへ波及させる拠点としての魅力ある公園となるよう、中室駅前との連動した再整備を進めます。

(2) エリアの整理

基本構想を策定するにあたり、スポーツエリア、歴史エリア、レクリエーションエリア、花のエリアの4つのエリアに大別し、それぞれのエリアの現状を踏まえた整備のあり方を整理しました。

- ・スポーツエリア: 老朽化した運動施設の再整備を進め、町のスポーツ環境の向上を図ります。
- ・歴史エリア: 樹齢200年超えのカシワや石碑等の歴史遺産を受け継ぐエリアとします。
- ・レクリエーションエリア: 芝生広場の水遊び場や遊具の再整備を行い、遊び・交流の機能を高めます。
- ・花のエリア: 花菖蒲園内の園路や木道を再整備し、花とのふれあいの場を演出します。



エリア図

(3)ゾーニング

芽室町民に広く親しまれている現在の公園施設の配置を基本に、見直しを検討するゾーンに絞ったゾーニングとしています。

公園が再整備されることで来園者の増加が見込まれることから、国道38号線沿いの「駐車ゾーン」については拡張することを想定しています。



ゾーニング図

(4)動線計画

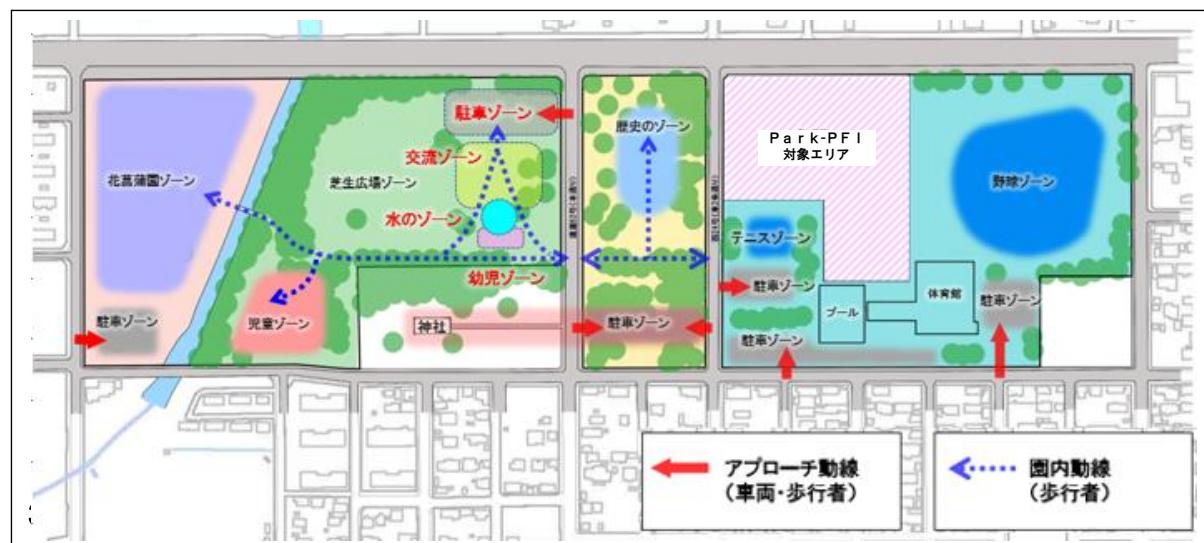
動線計画は、公園外部から車両や来園者の進入を示す「アプローチ動線」と、公園内を歩行者が移動する「園内動線」について検討しています。

なお、Park-PFI対象エリアについては、民間事業者との協議により動線を決定します。

○アプローチ動線：主要なアクセス道路から駐車場に向かう動線を示しています。

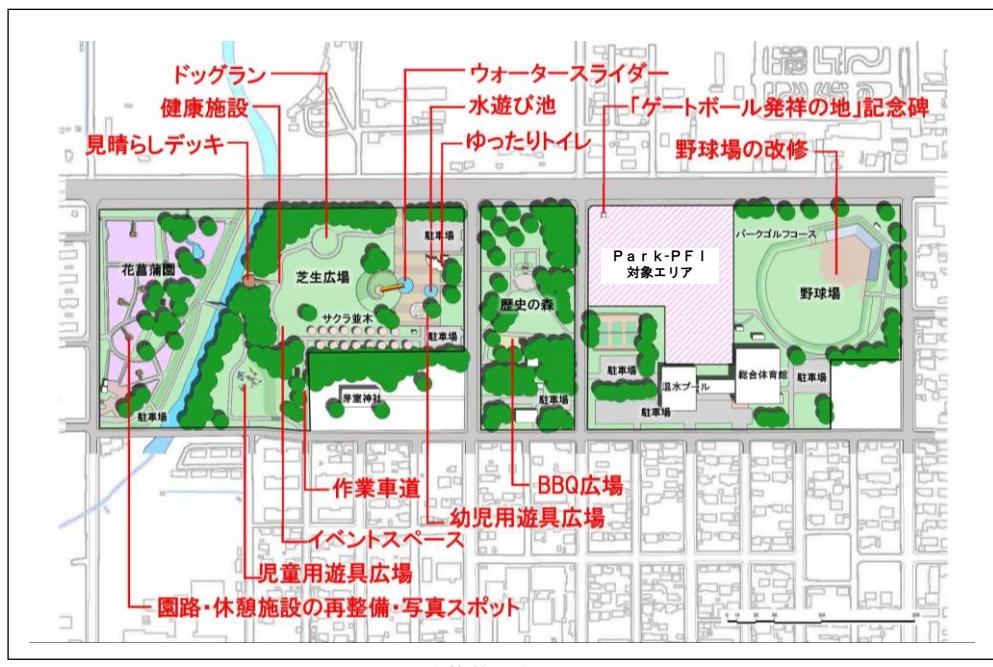
○園内動線：桜並木の園路を活かし、公園を東西に移動するための動線を主軸に、水のゾーンや交流ゾーンを行き来できる動線を確保します。

また、芽室公園の主要施設である花菖蒲園への動線も明確にするほか、芝生を一巡できる周遊ルートも想定し、散策だけに限らず、ウォーキングやジョギング等、健康づくりに寄与する動線として位置付けます。



動線計画図

本稿では、町民ニーズを反映し、芽室公園に新たに整備する施設(下図赤表記)について、そのイメージについて提示します。



改修施設位置図

(1) ウォータースライダーと水遊び池

ワークショップでも意見の多かった「ウォータースライダー付きの水遊び場」の再整備を検討します。

この水遊び施設は、築山の上から水の滑り台でプールに滑り降りるような形式を想定しています。

また、築山に登るためのスロープ園路も併設し、さまざまな利用者に対応できるよう検討します。

これまで、幼児と児童が同じ斜面の水遊び場を使用していましたが、幼児の安全に配慮し、本構想では、新たに幼児用水遊び場も増設する構想としています。幼児用の水遊び場の仕様は、ワークショップでの意見を反映し、地面から水が吹き出す形式を想定しています。



ウォータースライダーと水遊び池

(2) 幼児用遊具広場

現状の幼児用遊具広場の位置を明るい場所に移動し、遊具の更新を行うことを検討します。これにより、水遊びの時期以外でも、幼児連れの親子などが活用できます。遊具の選定にあたってはインクルーシブな遊具を取り入れ、誰でも遊べる芽室町の新しい遊具広場を目指します。

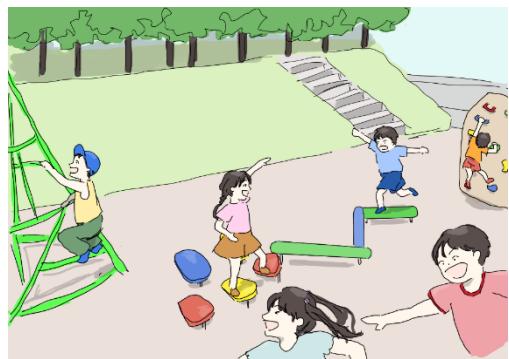


幼児用遊具広場

(3)児童用遊具広場

現在の芽室公園の遊具広場は、児童用の遊具広場とし、体を大きく動かせる、アクティブで挑戦的な遊具を整備して、近隣のイリス公園の遊具と差別化を図るとともに、思い切り子どもが駆け巡れる場所にすることを検討します。

また、児童用遊具広場と神社の間にある法面を活かして、冬の間はソリ遊びなどで活用できるよう、遊具の配置を検討します。



児童用遊具広場

(4)芝生広場

広大なオープンスペースである芝生広場の外周を活用し、町民から要望が多かったイベントや健康維持活動、ドッグランの3つの機能を新たに設けることを検討します。

①イベント広場

「イベント広場」は現在ある広場を活かしつつ、園路沿いにキッチンカーなどが入れるようにし、芽室のイベントをさらに盛り上げられる場を検討します。また、イベント会場の設営や撤去時に必要となる「作業車道」の確保もあわせて行います。



イベント広場



健康施設

②健康施設

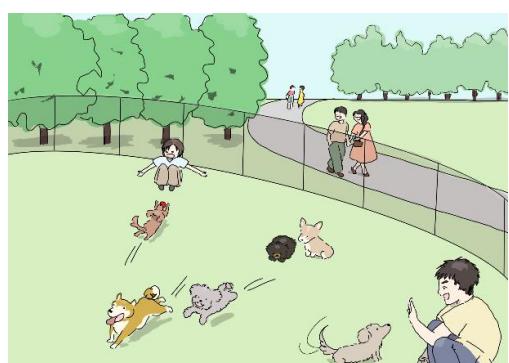
健康維持活動に寄与する整備として、園路に距離表示を行うなどして、ウォーキングやランニングのサポートを行う整備を検討します。

また、園路沿いには「健康施設」を配置し、健康維持活動を支援するものとします。

③ドッグラン

今まで芽室公園では、芝生での犬の散歩は禁止していましたが、令和6年度のアンケートでは、ペットを連れた散歩や「ドッグラン」を求める意見が非常に多かったことから、公園の芝生広場の一角に設置することを検討します。

なお、ドッグランの設置に関しては、運営や維持管理等の課題もあることから、仮設による試験的な実施の可能性も含めて検討します。



ドッグラン

(5)写真スポット

近年のSNSの普及を背景に、“映え”の文化が広く定着しており、全国的にも観光地や景勝地への写真スポットの設置が急速に増えています。そこで、本町を代表する芽室公園においても、公園の賑わいづくりや、町のPR活動の一環として、「写真スポット」の設置が有効であると考え、以下の目的で設置を検討しています。

①候補1:花菖蒲園

花菖蒲園は、北国の初夏を花で彩る人気のスポットであることから、花に囲まれる場所に写真撮影の場を設けることを検討します。

あわせて、老朽化した「園路」や「休憩施設」もリニューアルし、美しい風景となるような再整備を検討します。

②候補2:モニュメントの設置

ワークショップで提案のあった、「モニュメントのあるフォトスポット」について、デザインや設置位置について検討します。



写真スポット(花菖蒲園)



写真スポット(モニュメント)

(6)BBQ広場

現在利用されているBBQ広場は維持し、より利用しやすくなるよう、炊事場や屋根付きの施設の導入等を含めた検討を行います。なお、利用する場所については、大きなカシワに囲まれ、緑豊かな現状の位置と範囲で想定をしています。



BBQ広場

(7)アクションスポーツ広場

スケートボードの練習場や、バスケットコートの要望は、令和6年度のアンケートをはじめ、ワークショップでもそうしたニュースポーツの総称である「アクションスポーツ」のできる広場について意見が出されていたことから、今後計画が進められるPark-PFIの状況を考慮しながら、引き続き導入に向けた可能性について検討を行います。



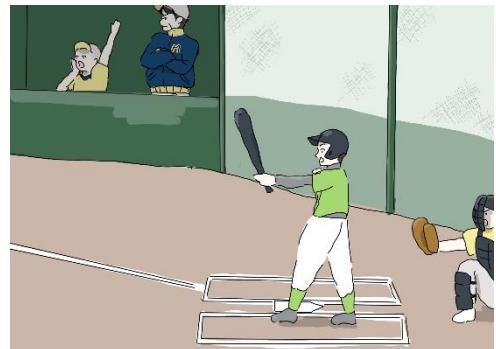
アクションスポーツ広場

(8)野球場の改修

現在、芽室公園内にある野球場は、市街地に位置し利用しやすい一方、施設の老朽化や、硬式野球には対応していないという課題があります。

子どもから大人までさまざまな年代の野球大会が開催される球場であることから、今後の更新にあわせ改修の検討が必要です。

規格や整備水準についても、球場の利用状況などを考慮したうえで検討します。



野球場

(9)「ゲートボール発祥の地」記念碑

芽室町はゲートボール発祥の地です。本町において1947年に、鈴木栄治氏が戦後の混乱の中で満足な遊具がない子どもたちのために、「手軽にあそべる健全なスポーツ」として考案されました。

芽室公園の中には「ゲートボール発祥の地」の記念碑もあり、再整備により周辺市町村からも集客が見込める芽室公園でのPR方法、石碑の移設、イベント等について検討します。



記念碑

(10)見晴らし台

「日高山脈襟裳十勝国立公園」は、2024年に指定された国立公園です。

北海道中央南部に位置し、海から山岳まで南北およそ140kmに及ぶ広大なエリアで、日本最大の国立公園です。

芽室公園内に見晴らし台を設置することで、公園内からも落ち着いて日高山脈の景観を眺めることができる「新たなビュースポット」となり、公園の魅力向上につながります。



見晴らし台

(11) ゆったりトイレの整備

芽室公園には、車椅子利用者やオストメイト(人工肛門・人工膀胱保有者)の方などが利用しやすいゆったりトイレが設置されており、年中無休・24時間利用可能となっています。

現トイレは老朽化が進んでいることから、再整備を含めた検討を行います。

また、近くに水遊び場があることから、着替えなどにも活用できる充実したスペースの確保や設備の機能向上についても検討します。



ゆったりトイレ

(12) 利便施設の整備

「芽室町まちなか再生ビジョン」では、芽室公園をまちなか活性化の起点の一つと位置づけ、公園内の利便性向上や滞在機能の強化に向けた利便施設の再整備の検討を行います。



利便施設

(13) 防災対策に向けた整備

公園の再整備にあたっては、「芽室町地域防災計画」などに基づき、有事の際に安全・安心な避難場所として活用できる場となるよう検討を行います。



防災対策

(14) Park-PFI事業との連携

官民連携による緑の活用・新たな公園整備を行い、公園利用者の利便性の向上、新たな誘客による消費喚起、地域内循環に取り組みます。

4. 今後の設計に向けて

令和7年度策定した芽室公園再整備基本構想は、主に町民アンケートやワークショップでの意見や要望を取りまとめたものであり、令和8年度に策定する基本計画の策定において、構想で提案している各施設の必要性や重要度、規模や事業費等について検討を進めていくことを想定しています。今後、芽室公園再整備基本計画の策定に向けて、町民の皆さんとの意向を確認しながら検討を進めてまいります。

芽室公園基本構想: 基本構想図

